

科目名	環境アセスメント Environmental Impact Assessment			担当教員	多川 正		
学年	5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	17134046	単位区分	履修単位
学習目標	建設分野における環境アセスメント（歴史、目的、手法、事例）に関する基礎事項を習得し、建設技術者として必要な環境アセスメントの評価方法を学び、実務において応用可能な基礎知識を習得する。						
進め方	授業内容の理解を深めるために、テキストや参考資料を配付して教科書の内容を補足説明する。 講義主体であるが、適宜ビデオ教材や事例調査を行い、環境影響評価の理解を深める。 また、講義の中に適宜、現在の技術・環境問題を取り上げ、発表、相互評価をする時間を設け、環境問題に関する建設技術者のあり方を議論する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 環境アセスメントとは（16） (1)授業ガイダンス、成績評価 (2)環境倫理とアセスメントの必要性 (3)持続可能な発展 (4)アセスメントとは何か ----- [前期中間試験] (2)			・アセスメントが供えなければならない条件を説明できる。 ・環境倫理とアセスメントとの関連について説明できる。 (A-2)			
	2. 環境影響評価法（16） (1)日本の制度Ⅰ 環境影響評価法 (2)日本の制度Ⅱ 条例環境アセスメント (3)評価、システム分析 (4)アセスメントの手続き (5)環境影響評価の事例調査 前期末試験 試験返却(1)			・環境アセスメントに求められている事項が環境影響評価法や各地の条例の中でどのように実現されているのかについて図を用いて説明できる。 ・事例調査に基づき、アセスメントの手続きが図示、説明できる。 (A-2)			
	3. 環境の調査・予測・評価（12） (1)コミュニケーションの方法 (2)検討範囲の絞り込み (3)調査と予測 (4)住民参加 ----- [後期中間試験] (2)			・文書形式、会議形式のコミュニケーションの特徴を説明できる。 ・スコーピングの必要性について説明できる。 (A-2)			
	4. 今後の環境アセスメント（12） (1)日本の制度と歴史 (2)より積極的な住民参加 (3)戦略的環境アセスメント 後期末試験 試験返却(1)			・制度の中で合意形成がどのような方法で具体化されているのか説明できる。 (A-2)			
	4回の試験結果を各々25%ずつ評価に入れて評価する。試験結果は60点以上を合格とする。定期試験では学年に関係なく、それまで学習したすべての内容を試験範囲とする。						
評価方法							
履修要件	特になし						
関連科目	環境工学Ⅱ(4年)→環境アセスメント(5年)→環境倫理・マネジメント(AS2)						
教材	教科書：住友 恒ら，新版 環境工学（理工図書）、配布テキスト 参考書：原科幸彦著，環境アセスメント[改訂版]放送大学教育振興会（NHK出版） 香川県生活環境部環境局 環境・土地政策課発行，香川県の環境アセスメント など						
備考	引用・参考図書を配布テキストに併記してありますので，自主的に学習に取り組む，自学自習の姿勢を希望します。また，授業に関連する参考書，図書，DVD等の貸し出しを随時行っています。 ・質問等はオフィスアワーに限らず，随時可（事前に連絡があるとより確実な対応ができます） 出張・外出等の予定は教員室前のホワイトボードの予定表を参考にしてください ・レポート類の提出先，教員室の場所：建設環境工学科棟2階 環境工学実験室内 ・連絡先：087-869-3928，E-mail tagawa@t.kagawa-nct.ac.jp						